

認知症の**早期発見のポイント**や、**早期治療**などについてお伝えします

橋本市民病院もの忘れ外来
おわいよしひろ
医師 **大饗義仁**

自分でできる認知症の 気づきチェックリスト

- 同じことを何度も言ったり聞いたりする
- 昔から知っている物や人の名前が出てこない
- 置き忘れやしまい忘れなど、探し物をするが増えた
- 約束をよく忘れるようになった
- 身だしなみに無関心になった
- 料理に時間がかかるようになった
- 同じ物を何個も買って来る
- 慣れた道でも迷うことがある
- 今まで好きだった趣味などへの興味や関心がなくなってきた
- ささいなことで怒りっぽくなった
- 車の運転が下手になった

初期症状

認知症はある日突然発症する病気ではありません。前触れとして、必ずサインを出しています。

「同じことを何度も言う」など「あれ？おかしいな」と思う症状はありませんか。認知症というと、徘徊したり、暴力をふるったり、家族を他人と思ったりといった症状が頭に浮かぶ人も多いかと思いますが、認知症の人すべてにそういう症状が出るとは限りません。

早期発見

本人も家族も「認知症だと認めたくない」と病院へ受診することをためらい、どんな症状が進んでしまう場合があります。認知症を疑う症状が出た場合、できるだけ早くもの忘れ外来や脳神経外科、脳神経内科、精神科、心療内科など専門機関を受診してください。個人差はありますが、認知症の薬を飲むことで、認知症の進行を抑えることができ、穏やかな生活を送ることが可能です。



▲「みかんの会」の会員が小学生たちと交流しました

シルバーライフに輝きを。

～高齢者の福祉を身近にわかりやすく～



vol.55 2020.9

主な内容

- ▶ 認知症を正しく理解しよう
 - ・橋本市民病院もの忘れ外来 医師へのインタビュー
 - ・みかんの会
- ▶ 橋本おうちトレーニング
- ▶ 100歳おめでとうございます

編集・発行
健康福祉部 いきいき健康課

認知症を正しく理解しよう

認知症は脳の病気で、65歳以上の高齢者の5人に1人が発症するといわれています。認知症を決して他人事と思わず、自分のこととして感じてみてください。

認知症は早期発見が大切

認知症は時間とともに症状が進行する病気ですが、早期に発見して適切に治療すれば、認知症への移行を予防することが出来ます。

認知症と加齢の違い

認知症は、さまざまな原因で脳の働きが悪くなり、記憶力や判断力が低下し、日常生活に支障が出る状態です。認知症による物忘れと加齢による物忘れは区別しにくいですが、次第に違いがはっきりしてきます。

●老化による物忘れ

- ・物忘れを自覚している
- ・体験の一部を忘れる
- ・物忘れの進行がほとんどないか非常に緩やかに

●認知症による物忘れ

- ・物忘れをしている自覚がないか、漠然としている
- ・体験の全体を忘れる
- ・物忘れが少しずつ進行していく

認知機能と年齢の関係

